

## 特別収蔵展のご案内 &amp; NEW 掲示板【ようこそ浜松文芸館へ】ご紹介



令和2年3月1日より、浜松文芸館展示室の展示が変わりました。特別収蔵展「今、再び藤枝静男の文学と人」。昨年夏にご遺族から寄贈していただいた貴重な品々を中心に、200点余りの作品を展示しました。この浜松に、すごい作家がいたことを皆様を知っていただきたく企画した展示です。中でも目を引くのは、交流のあった文人たちの書簡です。文学界での静男の豊かな人脈、

そして、興味深いやりとりから、まさに静男の人となりうかがえます。静男が晩年、毎年書き換えた遺言や当用日記も必見です。家族を思い、日常のほんの些細なことに一喜一憂する静男の姿は、また興味深いものです。更に深く藤枝静男像を皆様を知っていただく企画として、記念講演会「父を語る&作品朗読」を開催します。静男の長女、安達章子氏と文学評論家・折金紀男氏のトークショーからどんな藤枝静男が飛び出すのか、ワクワクしてきます。締めくくりは、堤腰和余先生による静男の最愛の妻、智世子夫人の死について書いた『悲しいだけ』（野間文芸賞受賞）の朗読です。きっと皆様の心に残るひと時になることでしょう。ただ、残念なことに、コロナウイルス感染拡大防止のため開催日（3月29日）を延期いたします。開催日時が決まり次第、おってお知らせしますので、楽しみにお待ちください。もう一つのお知らせです。クリエート浜松1階のインフォメーションコーナーに、【ようこそ浜松文芸館へ】が新設されました。皆さんをお迎えするのは、身長2メートルのイケメン青年（名前はまだありません）です。ここに設置されたガチャ機を使って『合作俳句』を作り、文芸に親しんでいただくコーナーです。合作俳句は、5階浜松文芸館事務室横のガチャ機で完成です。参加賞としてお菓子の詰め合わせを進呈いたします。どうぞ、ガチャ機の中のガチャ玉を手にとって、『合作俳句』に挑戦してみてください！



浜松市民文芸 第65集  
好評販売中！ 一冊¥500¥

\*お求めは浜松文芸館事務室まで

つれづれなるままに…こんな時こそ読書を！

コロナウイルス拡散防止で、休校やイベント中止が相次ぐ今日この頃。暇をもてあまして何もすることがないと嘆く学生諸君、こんな時こそ、本を読もうではないか。幸いにも、浜松市内の図書館は開館中。読みたい本があったらまず手に取ってページをめくってほしい。本との出会いは、あなたの人生をちょっと変えてくれるかもしれない。自分は、カミュの『ペスト』を再読してみた。カミュと言えば『変身』が有名だ。目が覚めたら虫になっていたという、なんとも信じがたい不条理の世界を描いたこの作品に触れたのは高校生の頃であった。併せて読んだ『ペスト』にも驚きと恐ろしさを感じたものだ。一匹の鼠の死骸をある医師が見つかることから始まるこの小説。場面やストーリー、セリフの幾つかに、例えば「徹底的なそちをとらなきゃ、なんのくんのいってるだけじゃだめだって。病疫に対してそれこそ完全な防壁を築くか、さもなきゃ全然なんにもしないのもおんなじだって言ったんです。」ドキッとする。まさに、今起きているコロナウイルス感染状況や対応と重なるものが見えるようだ。とても70年前の作品とは思えないリアリティを感じる。それでも、救いは、ペストに襲われた人間集団が助け合いながら立ち向かい、やがて収束を迎えることか。今、不安はつきないが、せめて風評には惑わされない冷静な心を持ち続けたい。